

兵庫県女子審判員 3 級認定講習会競技規則テスト

🌀正しいものには○正しくないものには×を記入してください。【2点×15】

1. 長い方の2本の境界線をタッチライン、短い方の境界線をエンドラインという
2. センターマークおよびペナルティーマークは直径22cmの円で描く。
3. ボールがタッチラインを越えて、アウトオブプレーになったあとにボールがパンクしボールを交換した。その後ドロップボールにて再開した。

4. 交代の進め方

交代要員は、次の条件において競技のフィールドに入ることができる。

- ・プレーが停止されている。
- ・ハーフウェーラインのところから。
- ・交代によって退く競技者が競技のフィールドの外に出た。
- ・交代によって退く競技者が競技のフィールドの外に出たときにフィールドに入る

5. チームキャプテン

各チームには、フィールド上にキャプテンとして識別できるアームバンドを着用したキャプテンがいなければならない。

6. ゴールキーパーは、帽子の着用は認められていない。

●副審のシグナル

7. 守備側チームのスローイン



9. フィールドの近い位置でのオフサイド



8. 交代



10. 攻撃側の競技者が相手競技者の視線をさえぎる位置にいて、その結果、相手がボールをプレーする可能性を妨げた場合でも、ボールに触れなければオフサイドの反則にはならない。
11. オフサイドポジションの選手がボールに向かってチャレンジするだけで、相手競技者との明確な接触がなければ反則とはならない。
12. オフサイドポジションにいる競技者が、自分の近くにあるボールを明らかにプレーしようとして動き出し、その行動が相手競技者に影響を与えた場合、オフサイドの反則となる。
13. ボールがクロスバーに当たって跳ね返ったのをオフサイドポジションの競技者がプレーした場合でも、その競技者がボールに直接関与しなければ反則にはならない。
14. 競技者がスローインからボールを直接受けた場合、オフサイドポジションにいても反則にはならない。
15. チャージとは、相手競技者に対して身体的にチャレンジすることで、通常は肩や足を使って行われる。

🌐 第3条、第5条、第6条、第11条、第12条について正しいものを別紙1の語群から選択し解答用紙に番号を記入してください。【1点×62】

- ・試合は、(16.)人以下の競技者からなる2つのチームによって行われる。そのうち1人は、ゴールキーパーである。いずれかのチームが(17.)人未満の場合、試合は、開始も続行もされない。
1人以上の競技者が意図的に競技のフィールドから出たために1チームの競技者が(17.)人未満となった場合、主審は、プレーを停止する必要がなく、アドバンテージを適用することができる。ただし、ボールがアウトオブプレーになった後に1チームの競技者が(17.)人未満である場合、試合を再開してはならない。

主審は、

- ・(18.)を施行する。
- ・その他の審判員と協力して試合をコントロールする。
- ・(19.)を務め、また試合の記録を取り、関係機関に審判報告書を提出する。報告書には、試合前、試合中または試合後の懲戒処置やその他の出来事に関する情報が含まれる。
- ・(20.)を管理し合図する。

副審は、次のときに合図をする。

副審は、次のときに合図をする。

- ・(21.)ときに、どちらのチームが(22.)、(23.)または(24.)を行うのか。
- ・(25.)にいる競技者が罰せられるとき。
- ・(26.)が要請されているとき。
- ・ペナルティーキックのとき、ボールがけられる前にゴールキーパーが(27.)どうか、またボールが(28.)どうか。

オフサイドポジションにいることは(29.)ではない。

競技者は、次の場合、オフサイドポジションにいることになる。

- ・(30.)、胴体、(31.)の一部でも相手競技者のハーフ内にある。(ハーフウェーラインは除く)。そして、
- ・競技者の(30.)、胴体、(31.)の一部でも、(32.)および(33.)から2人目の相手競技者より相手競技者の(34.)に近い位置にある。ゴールキーパーを含むすべての競技者の手や腕は、含まれない。オフサイドの反則を判定するにあたり、腕の上限は、(35.)の(36.)の位置までのところとする。

競技者は次と同じレベルにいる場合、オフサイドポジションにいないことになる。

- ・(37.)、または、
- ・(38.)
ボールが味方競技者によってプレーされたか触れられた瞬間にオフサイドポジションにいる競技者は、次のいずれかによってそのときのプレーにかかわっている場合にのみ罰せられる。

直接フリーキック

競技者が次の反則のいずれかを相手競技者に対して不用意に、無謀に、または過剰な力で犯したと主審が判断した場合、直接フリーキックが与えられる。

- ・(39.)。
- ・(40.)。
- ・(41.)。
- ・(42.)。

- ・(43.) (44.) を含む。
- ・(45.)、または (46.) する。
- ・(47.)。
- ・不用意とは、競技者が相手にチャレンジするときに (48.) や (49.) が欠けていると判断される、または (50.) を欠いて行動すること。懲戒の罰則は、必要ない。
- ・無謀とは、競技者が相手競技者にとって (51.) になる、または (52.) そうなることを (53.) して行動することで、警告されなければならない。

過剰な力を用いるとは、競技者が (54.) を用いる、または相手競技者の (55.) を (56.) ことで、退場が命じられなければならない。

競技者が次の反則のいずれかを犯した場合、直接フリーキックが与えられる。

- ・(57.) (自分のペナルティーエリア内でゴールキーパーが触れた場合を除く)。
- ・(58.)。
- ・(59.)。
- ・チームリストに記載されている者もしくは審判員を (60.)、またはこれらに向かって (61.)。
- ・ボール、相手競技者もしくは審判員に向かって (62.)、または (63.) でボールに触れる。

▷ボールを手や腕で扱う

ハンドの反則を判定するにあたり、腕の上限は、脇の下の最も奥の位置までのところとする。競技者の手や腕にボールが触れることのすべてが、(64.)。

競技者が次のことを行った場合、反則となる。

- ・例えば手や腕をボールの (65.) に動かし、手や腕で (66.) にボールに触れる。
- ・手や腕で体を (67.) して手や腕でボールに触れる。手や腕の位置が、その (68.) における競技者の体の動きによるものではなく、また、競技者の体の動きから (69.) ではないと判断された場合、競技者は、不自然に体を大きくしたとみなされる。競技者の手や腕がそのような位置にあったならば、手や腕にボールが当たりハンドの反則で罰せられるリスクがある。
- ・相手チームのゴールに次のように得点する。
- ・(70.) であっても、ゴールキーパーを含め (71.) の手や腕から (72.)。
- ・(70.) であっても、ボールが (71.) の手や腕に (72.) に。

▷得点または決定的な得点機会の阻止で考慮する状況を答えよ。

- ・(73.)
- ・(74.)
- ・ボールを (75.) または (76.)
- ・(77.)

 **78.** 攻撃側競技者によってシュートされたボールがゴールポストに直撃し、その後地面にバウンドした。このバウンドしたときにボールは完全にゴールラインを越えていたが、その後バウンドしたボールはフィールド内に戻ってきた。この時に副審が行うべきことは何か競技規則に沿って記入してください。【8点】